

## 嬉野市の忍者情報「肥前タイ捨流」

### 【タイ捨流】とは？

タイ捨流とは、熊本の人吉藩が発祥の剣術流派。創始者は丸目 蔵人（まるめ くらんど）。人吉藩の相良忍軍も活用していたとされる剣術。

### 【肥前タイ捨流】とは？

肥後（熊本）で生まれたタイ捨流は、肥前（佐賀）でも活用されることとなる。丸目蔵人が肥前（佐賀や武雄）まで直接指南を行ったり、丸目蔵人の弟子である伝林坊が、元々多久の山伏だったこともあり、肥前でのタイ捨流が普及した。ここで独自の技が発達したかどうかは不明だが、これが「肥前タイ捨流」と呼ばれる所以。※葉隠を記した山本常朝や第十代藩主の鍋島直正もタイ捨流の門人であった

### 【丸目蔵人佐徹斎藤原長恵傳】

丸目蔵人佐徹斎藤原長恵傳とは、タイ捨流の巻物を現代訳した文章。これに肥前に伝わったタイ捨流のことにも記載がある。

タイ捨流第12世宗家「小田夕可」の弟子「宮崎十念」作。

相良忍軍の頭梁「伝林坊頼慶」（でんりんぼう らいぎょ？）が、彦山八天狗弁慶夢想と名乗り、吉田村（現・嬉野市吉田）の武次与三兵衛に捕縛術・馬術・鎌術・弓術などと一緒に【忍術】を相伝したと記されている。その証拠に塩田の八天社（現：八天神社）に相伝した巻物が残っており、吉田村のタイ捨流は「八天タイ捨流」と呼ばれている。

### 【忍術・手裏剣術】

タイ捨流の巻物には、忍術や手裏剣術もあったと記されているが、現在では剣術のみ受け継がれている。忍術に関しては、内容も全く残っていないとのこと。

上記の内容をふまえ、伝林坊から吉田村に伝わった「八天タイ捨流」には【忍術】も含まれており、その忍術を吉田村の武次与三兵衛が相伝したという事実から、武次与三兵衛は忍術を使える忍者だったと解釈できる。



